

A350F初号機が初飛行に成功

■エアバス

エアバスは9月29日、開発中の新型貨物機A350 F型機が仏トゥールーズで初飛行に成功したと発表した。2機ある飛行試験機の初号機（MSN700）が現地時間同日10時30分に離陸し、4時間10分飛行した。今後約10カ月にわたり、計400時間の飛行試験を行い、欧州航空安全庁（EASA）の型式証明取得を目指す。顧客向け初号機の納入は2027年後半を予定。ローンチカスタマーはシンガポール航空で、22年2月に7機を確定発注している。

初飛行では高度2万5000フィートまで上昇し、基本的な耐空性や飛行特性、主要システムの作動状況などを確認した。今後は操縦特性や機体性能、各種システムについて幅広く検証する。2機目の試験機（MSN701）も最終組み立てが進んでおり、今後数週間以内に塗装工程に入る予定。

A350F型機は最大ペイロード111トン、航続距離最大8700キロメートル。ロールス・ロイス製「トレントXWB-97」エンジンを搭載する。機体の70%以上に先進材料を使用し、エア

バスによると、同等のペイロード・航続性能を持つ競合機に比べ、燃料消費量と二酸化炭素（CO₂）排出量を最大40%削減する。

8月末時点の受注数は115機。このうち公表済みの14社から計107機、非公表顧客から8機を受注している。公表済み顧客の内訳は、アトラスエア20機、中国国際貨運航空10機、アビリース10機、エティハド航空10

機、スターラックス航空10機、キャセイ・グループ（キャセイパシフィック・エアクラフト・サービシーズ）8機、CMA-CGM8機、大韓航空7機、シンガポール航空7機、ターキッシュエアラインズ5機、シルクウェイ・ウエスト航空4機、エールフランス3機、マーチンエアー3機、MNGエアラインズ2機。



9月29日、仏トゥールーズで初飛行したA350F型機



A350F飛行試験初号機（MSN700）。顧客への初号機納入は2027年後半を予定する